

第 4 回日露エネルギー・環境対話イン新潟
「新潟アピール 2011」

2011 年 11 月 15 日 於：新潟市

本年 3 月に日本の東北地方で起きた大災害は、エネルギー問題を世界規模で見直す動きに繋がる一方、日口間ではエネルギー協力の強化・拡大を具体化するきっかけとなった。

日口間のエネルギー・環境協力は、北東アジアの、ひいては、世界の平和と繁栄を図る上で重要な役割を果たすものであり、また、新潟は対岸交流の長い歴史とエネルギー受入基地としての豊富な実績を有するとともに、エネルギー技術の開発に真摯に取り組んでいることから、この国際会議を継続して開催した意義は大きい。

世界経済の成長の原動力であるアジアは、世界規模のエネルギー・環境問題を解決する鍵を握る地域であり、この「対話」の継続・拡大が北東アジア、広くアジア・世界の共通の課題の解決に結び付くことを願うものである。

そのため、この国際会議の主催者である新潟県、新潟市および ERINA は、以下のとおり「対話」の意義と目標を再確認し、今回の「対話」の成果を活かしながら、日口両国の中央・地方政府、関係機関ならびに民間が、これらの取り組みを積極的に推進するよう、ここに提案する。

● 「対話」の意義

エネルギーの大消費国日本と大供給国ロシアとの協力は、相互理解と相互信頼を醸成し、各般に互る両国間互惠関係を深化させるとともに、両国の地域社会の発展に広く貢献するものである。

日口協力関係が発展することにより、周辺各国を巻き込んだ多国間協力の基盤を築き、広域のエネルギー安全保障の確保に繋がるものである。

● 「対話」の目標

- ・ エネルギー資源の供給能力拡大と安定供給確保をもたらす具体的なビジネス協力事業の創出・拡大（ロシア東部地域を中心とするエネルギー資源の探鉱・開発・輸送・加工・利用他）
- ・ 特に、ガス化学・地域のガス化などの分野での地域間協力の実現
- ・ 地球温暖化防止に係る新エネルギー・環境・省エネルギー・エネルギーの効率的利用など各技術の開発・導入
- ・ 協力のプラットフォームの構築、長期的には北東アジアエネルギー・環境共同体の形成

● 今回の「対話」の主な成果

- ・ 東日本大震災と原発事故に伴うエネルギー政策の転換期にあって、この「対話」を行ったことは極めて時宜を得たものであった。
- ・ 新潟県が日本を代表する LNG 受入基地であることがアピールされ、LNG 供給基地となるロシア側の関心を喚起した。
- ・ 低炭素社会に向けたロシア側のさまざまな考えが紹介され、地域のガス化や新エネルギーなどの分野における地方レベルの日口協力の可能性が高まっていることが示唆された。

（その他、主な成果は後日、あらためて主催者より発表する。）